Universal Design 製品の開発方法を確立

飲料容器をモデルケースとして、ユーザーの視点に立った「持ちやすさ」、「開けやすさ」等に配慮したＵＤ製品の開発方法を確立しました。

ＵＤ製品開発方法

産官学民研究チームの設立
人数：２１名
年齢：１８～９０歳
多様なユーザー：肢体不自由、視覚障害等

↓

企　画
ユーザーの定点観測
顕在問題、潜在問題の抽出
ニーズ調査

↓

概　念　設　定
「いつ」、「どこで」、「誰が」、「どのように」等
使用状況の明確化
デザインコンセプトの決定

↓

詳　細　設　定
人間工学データの反映

↓

試作、評価
デザイン案の試作、評価
ＣＧによる擬似試作
木型による実物試作
モニタリング検証
問題点の抽出

↓

試作改善、評価
改善案の検討
改善案の作成
モニタリング検証

↓

販　売
販売促進企画
販売後のフォロー調査

この方法は、ISO13407（インタラクティブシステムの人間中心設計過程）を参考にしました。

産官学民研究チーム

産官学民の研究チームを設立し、ＵＤ製品開発を実施した結果、ユーザー参加型のものづくりが有効であることが分かりました。

ユーザー参加型のものづくり

ニーズ調査、モニタリング検証

ユーザーの使用場面を想定したニーズ調査、モニタリング検証が、ＵＤ製品開発に最適であることが分かりました。

ニーズ調査

すべての県内企業がＵＤ製品を開発する際、この方法の利用が有効です。
この方法で開発した飲料容器は、今秋製品化予定です。

―　ユニバーサルデザインパッケージ開発研究　―　（Ｈ１７年度）
担当者：愛媛県工業技術センター　　主任研究員　　藤田　雅彦